

1. 医学部医学科教育

平成14年度まで検討されてきた新カリキュラムによる授業が、全学教育・専門教育共に1年次生から施行された。全学教育では「教養セミナー」、専門教育ではコア・カリキュラムの導入と臨床実習の高度化などを特徴とする新カリキュラムは、今後学年進行で導入されていくことになる。全学組織「大学教育機能開発センター」を中心に、全学教育と専門教育の両方で学生による教育評価も開始された。

医学専門教育においては、ハード、ソフトの両面から環境整備が進んだ。

(平成14年度 医学部長 兼松隆之、教務委員長 由井克之
学生委員長 大園恵幸、入試委員長 近藤宇史)

A. 全学教育

本年度、全学教育が始まって以来の大幅改訂のカリキュラムが施行された。従来全学教育科目として行われていた教養から専門への橋渡しとなる科目（B科目群）は専門科目として行われることになり、必修単位数が大幅に削減され、履修単位数の上限も設けられた。また、新たに新入生を対象にした少人数教育「教養セミナー」が始まった。医学部は、個別科目の人間科学分野の責任部局として運営を担っている。医学科からは、講義科目ではのべ134名の教官が6科目区分、16科目の授業を担当した。また、教養セミナーでは32名の医学科教官が担当した（表1）。

B. 専門教育

1年次では、全学教育授業日が週3日間に減り専門教育授業日が週2日間に増加すると共に、新カリキュラムが導入された。従来全学教育で行われていた専門準備科目がなくなり、「細胞生物学」「医学統計学」「生物化学」「生物・化学実習」が新たに専門科目に加わった。また、長崎大学医学部の特徴として「原爆医学概論」が新規科目として開始された。1年次「医と社会」では、医学科・保健学科の共修の授業が始まった。また、学生に対する評価を厳格にする方針に基づいて、新たに1年次から2年次への進級バリアーが設けられ、進級要件が厳格になった。新カリキュラムは、コア・カリキュラムの導入、診療参加型実習の充実拡充、選択の拡大、単位制の導入、進級判定基準の厳格化などを骨子としており、今後学年進行で上級学年にも導入されていく。

2年次以上については、従来60分授業と90分授業が混在していた授業時間が1コマ90分に統一された。平成11年度のカリキュラム改訂時に入学した学生が4年次に進級し、それに伴い「消化器系」「熱帯医学」「中毒・物理的要因系」が4年次に移行した（表2）。4年次のリサーチセミナーは、昨年と同様各基礎教室に4名以内の学生が配属された。また6名の学生が海外実習に参加した（表3）。施設面では、旧原研2号館2階の情報処理室の学生用パソコンがネット化された。講義における液晶プロジェクターの使用頻度も高まっており、授業のデジタル化が進んでいる。臨床実習協定締結施設は19施設、臨床教授・臨床助教授も23名に増加した（表4）。平成14年度の卒業生は104名で、その国家試験合格率は92.3%であった。

C. 「臨床実習開始前の共用試験」の導入と問題作成

平成17年度の本格的導入に向けて、昨年に引き続き「臨床実習開始前の共用試験」の問題作成とトライアルが行われた。共用試験は、知識・技能・態度をコンピューター試験（CBT）と客観的臨床能力試験（OSCE）の二本立てで評価する。CBT 実施に向けて本学にも100題以上の問題作成が依頼され、26名の CBT 問題作成委員会を組織して問題作成及びそのブラッシュアップを行った。また、第二回 CBT トライアルは、2月24日、3月10日及び4月1日（追試）の3回に分けて行われた。OSCE は、4年次前期科目「診断学」の試験として実施された。共用試験のトライアルとして、九州大学及び久留米大学より13名の評価委員が参加した。

（共用試験 C B T 問題作成委員会：下川（委員長）、他25名）

D. 第二回医学部医学科 FD の実施

医学教育の急速な改革の流れに対する教官の理解と意識を高める目的で、一泊二日の日程で第二回医学部 FD を開催した（11月28・29日、長崎式見ハイツ）。「チュートリアル教育」をテーマに、岐阜大学の高橋優三先生と岡野幸雄先生の講演、チュートリアルシナリオ作成のワークショップ、全体討論などを行った。38名の教官の参加と6名の学生の協力を得、チュートリアルの理解と共に、本学でも導入すべきか議論し、大いに盛り上がった。平成15年度から導入される「医学ゼミ」でも、この成果が反映されることを期待する。

（文責 由井克之）

表1 平成14年度 医学部教官の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部教官

科目区分	授業科目名	担 当 教 官
共通基礎科目	教養セミナー	片峰 茂、片山一朗、柴田義貞、新川詔夫、田口 尚、谷山紘太郎、中園一郎、丹羽正美、林 邦昭、矢野捷介、青柳 潔、上谷雅孝、岡市協生、貝原宗重、黒川 衛、永山雄二、平野明喜、古井純一郎、松田尚樹、森内良三、赤嶺晋治、上園保仁、大谷 博、坂口末廣、崎浜教之、高村 昇、津田亮一、戸田源二、中島正洋、中山敏幸、藤村幸一、松下哲朗
	教養特別講義	相川忠臣、関根一郎、朝長万佐男、前田隆浩
情報処理科目	情報処理入門	本多正幸、三根眞理子、山野辺裕二、本田純久
健康・スポーツ科学科目	健康科学	石丸忠之、大園恵幸、有澤孝吉、岡 三喜男、草場英介、難波裕幸、牧山和也、諸岡浩明、芦澤直人、川崎英二、辻田高宏、原 哲也、平瀧洋一、藤下 晃、槇田徹次、山口義彦、山近史郎、吉村秀一郎、渡邊 浩、今村明、中根秀之、福田久信、藤丸浩輔
人間科学科目	人間の科学	下川 功、中園一郎、木下英一、古賀成彦、増崎英明、池松和哉
	生体の機能	金武 洋、近藤宇史、佐々木 均、澄川耕二、丹羽正美、矢野捷介、貝原宗重、北岡 隆、古賀成彦、重野浩一郎、中嶋幹郎、永山雄二、牧山和也、山田恭暉、調 漸、磯本正二郎、井原義人、上園保仁、瀬戸信二、辻田高宏、徳永能治、野俣浩一郎、芦澤潔人、松瀬厚人、迎 寛
	生命の科学	綾部公懿、兼松隆之、上平 憲、関根一郎、森内浩幸、由井克之、鶴殿平一郎、岡市協生、廣瀬察二、清水和宏、濱崎洋一郎、松本逸郎、野俣浩一郎
	人間と環境	奥村 寛、松田尚樹、辻村 徹、松本智子、今村 明、中根秀之
	生体の構造	雨宮次生、小路武彦、松山俊文、重松和人、塚元和弘、林 徳眞吉、松本直通、近藤達郎、菱川善隆、山本一男、安倍邦子、河野友子
自然科学科目	生物の科学	佐藤 浩、中山 享、木住野達也
総合科学科目	暮らしと学問	谷山紘太郎
	現代の生命像	兼松隆之
	情報と歴史	相川忠臣
	長崎の自然・社会・文化	三根眞理子
	平和講座	三根眞理子
	放射能の光と影	林 邦昭

B. 全学教育関連委員会の医学部委員

委 員 会		委 員
全 学 教 育 実 施 委 員 会		由 井 克 之 (教務委員長)
全学教育実施委員会 (科目別専門委員会)	教養セミナー専門委員会委員	下 川 功 (人間科学専門委員会委員長)
	教養セミナー専門委員会委員	中 園 一 郎
	教養特別講義専門委員会委員	本 多 正 幸
	情報処理科目専門委員会委員	柴 田 義 貞
	健康・スポーツ科学専門委員会委員	進 藤 裕 幸
	外国語科目専門委員会委員	森 内 浩 幸
	人文・社会科学専門委員会委員	長 島 聖 司
	人 間 科 学 専 門 委 員 会 委 員	小 路 武 彦
		下 川 功
		金 武 洋
	自 然 科 学 専 門 委 員 会 委 員	佐々木 均
		山 下 俊 一
		佐 藤 浩
総 合 科 学 専 門 委 員 会 委 員	岩 堀 修 明	
留 学 生 用 科 目 専 門 委 員 会 委 員	江 石 清 行	

表2 平成14年度 1～6年次授業科目(系)責任者

学年	授業科目	責任者	学年	授業科目	責任者
1 年 次	医と社会(医学入門)	大園 恵 幸	4 年 次	感覚系(眼科学)	雨宮 次 生
	人間生物学	相川 忠 臣		感覚系(耳鼻咽喉科学)	重野 浩一郎
	細胞生物学	山下 俊 一		皮膚・結合組織系	片山 一 朗
	医学統計学	柴田 義 貞		精神系	辻村 徹
	生物化学	伊藤 敬		診断学	大園 恵 幸
	生物・化学実習	伊藤 敬		外科治療学	兼松 隆之
	原爆医学概論	朝長 万左男		熱帯医学	由井 克之
	人体構造系 I	長島 聖 司		リサーチセミナー	下川 功
2 年 次	医と社会	相川 忠 臣	5 年 次	医と社会	中根 允 文
	人体構造系 II	長島 聖 司		社会医学	青柳 潔
	神経・感覚器系	岩堀 修 明		法医学	中園 一 郎
	発生・組織系	小路 武 彦		内科総括講義	江口 勝 美
	動物性機能系	篠原 一 之	精神神経科総括講義	中根 允 文	
	内臓機能・体液系	相川 忠 臣	小児科総括講義	森内 浩 幸	
	生体分子系	伊藤 敬	外科総括講義	兼松 隆之	
	分子遺伝系	新川 詔 夫	整形外科総括講義	進藤 裕 幸	
3 年 次	医と社会	相川 忠 臣 大園 恵 幸	5 年 次	皮膚科総括講義	片山 一 朗
	感染系	片峰 茂		泌尿器科総括講義	金武 洋
	免疫系	由井 克之		眼科総括講義	雨宮 次 生
	病理総論系	下川 功		耳鼻咽喉科総括講義	重野 浩一郎
	腫瘍系	松山 俊 文		放射線医学総括講義	林 邦 昭
	分子病態系	近藤 宇 史		産婦人科総括講義	石丸 忠 之
	環境因子系 I	奥村 寛		麻酔科総括講義	澄川 耕 二
	環境因子系 II	有澤 孝 吉		脳神経外科総括講義	上ノ郷 眞木雄
	薬理学	谷山 紘太郎		形成外科総括講義	藤井 徹
	病理各論系 I	田口 尚		心臓血管外科総括講義	江石 清 行
	病理各論系 II	田口 尚		臨床検査医学総括講義	上平 憲
	内分泌・代謝・栄養系	江口 勝 美		総合病理学	関根 一 郎
	循環器系	矢野 捷 介		熱帯医学	由井 克之
	呼吸器系	河野 茂		総合科目	矢野 捷 介
	血液・リンパ系	朝長 万左男		内科総括講義	江口 勝 美
応用薬理学(選択科目)	丹羽 正 美	外科総括講義	兼松 隆之		
4 年 次	消化器系	関根 一 郎	6 年 次	臨床特論	朝長 万左男
	脳・神経系	中村 龍 文		医と社会	中根 允 文
	腎泌尿器系	金武 洋		最終臨床総括講義	矢野 捷 介
	生殖系	石丸 忠 之			
	運動系	進藤 裕 幸			
	小児系	森内 浩 幸			
	中毒・物理的要因系	有澤 孝 吉			

表3 平成14年度 4年次後期「リサーチセミナー」

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	秋野公造	BMP2の未分化間葉系幹細胞に対する初期作用	2
解剖学第二	長島聖司	人体の局所解剖	1
	分部哲秋		
	岡本圭史	人体の局所解剖	2
解剖学第三	小 路 武 彦	ラット再生肝に於けるKGF及びKGF受容体発現の検討	2
	菱川善隆 進正志	ER α ノックアウトマウスに於ける環境ホルモンの生殖腺への影響	2
生理学第一	松本逸郎	交感神経活動におよぼす小脳およびポリリサクカライド(大腸菌由来の発熱物質)の影響	2
		ストレス誘発の摂食抑制のメカニズム解析	2
生理学第二	篠原一之	ヒトとヒトのフェロモンを介したコミュニケーション ヒトの体内時計メカニズム	1
	藤村幸一	体内時計を明暗同期して同調させるニューロンメカニズム	1
	西原永潤	視床下部におけるステロイドホルモンと時計遺伝子の転写制御機構	1
	守屋孝洋	幹細胞の分化・増殖機能に対する体内時計の制御機構	1
生 化 学	伊藤敬	組み換え蛋白質の発現と精製	3
	中山享		
	池原強		
薬理学第一	丹羽正美	血液脳関門(BBB)と薬物の中枢送達性	1
	永山雄二	癌の遺伝子治療	1
	山下康子	血液脳関門(BBB)と抗痴呆薬・抗プリオン薬	1
	古川ひさ子	抗プリオン薬と抗痴呆薬	1
薬理学第二	谷山紘太郎	受容体およびイオンチャネルクローニングとその発現および機能	2
	貝原宗重		
	上園保仁	消化管運動改善薬の作用機序	2
病理学第一	林日出喜	細胞死(アポトーシス)関連遺伝子のクローニング	1
	下川功	ミトコンドリア関連遺伝子発現の加齢変化	1
	大谷博	乳癌の臨床病理学的研究	1
	山座治義	エネルギー代謝に関連する遺伝子発現の研究	1
病理学第二	千葉卓哉	老化に関連する遺伝子発現解析	1
	田口尚	腎疾患の病理学的研究	2
衛生学	有澤孝吉	多目的コホート研究	1

教室名	指導教官	研究テーマ	受講 学生数
公衆衛生学	青柳 潔	地域住民における軽度高血圧症の健康教育	1
	草野 洋介	地域住民における高脂血症の健康教育	1
医動物学	塚田 晃三	T細胞アナジーの維持の分子機構の解析	1
	本間 季里	クロスプレゼンテーションのメカニズムの解析	1
法医学	中園 一郎	低酸素時に発現する遺伝子の検索	3
	津田 亮一	心臓突然死における原因遺伝子の検索	
	池松 和哉	薬物依存時に発現する遺伝子の検索	
原研病理	関根 一郎	放射線傷害に対する治療法の開発：治療効果の病理学的検討	1
	中島 正洋	原爆被爆者甲状腺癌パラフィン切片を用いた ret/PTC rearrangement の FISH 解析	1
	中山 敏幸	胃癌細胞におけるインターロイキン-11の浸潤に与える影響	1
	七條 和子	放射線照射と腸管傷害の病理学的検討	1
原研放射	岡市 協生	環境ストレスに対する p53の応答	2
	芦澤 潔人	甲状腺がん細胞の浸潤性の検討	1
(RIセンター)	松田 尚樹	太陽光紫外線に対する細胞の応答性の検討	1
原研生化	井原 義人	レドックス分子グルタレドキシンのシグナル制御	2
	近藤 宇史		
	後藤 信治	細胞内小器官の酸化ストレス応答とクロストーク	1
	近藤 宇史		
原研疫学	柴田 義貞	生活習慣病のリスク因子に関するメタ・アナリシス	2
	本田 純久		
原研遺伝	松本 直通	遺伝子病のポジショナルクローニング	1
原研細胞	山下 俊一	放射線生命医療科学（チェルノブイリフィールドワークを含む）	1
	難波 裕幸	甲状腺がんの分子生物学	1
	大津留 晶	遺伝子治療の基礎研究	1
感染防御	山本 一男	インターフェロン調節因子ファミリーの転写制御機構	1
	河野 友子	TNFと生体防御機構	1
感染分子	森内 良三	がんウイルスによる発がん機構の解明	1
	坂口 末廣	プリオンの分子生物学	1
	西田 教行	プリオン感染治療法の確立	1
動物実験施設	佐藤 浩	ヒヘルペスウイルスHVP2の遺伝子解析	1
	大沢 一貴		

教室名	指導教官	研究テーマ	受講 学生数
熱帯医学研究所			
分子構造	森田 公一	遺伝子工学を利用したリコンビナントウイルスの作製	2
	長谷部 太	リバビリンのフラビウイルスに対する抗ウイルス作用	2
病原因子	平山 壽哉	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の作用機序解析	2
	和田 昭裕		
感染細胞	神原 廣二	腸内原虫症の疫学	2
	中澤 秀介	再燃（マウスマラリアモデル）	1
	上村 春樹	Trypanosoma cruzi(シャガス病の病原原虫) トランスシアリダーゼ遺伝子の発現と役割りについて	1
寄生行動	渡部 幹次	住血吸虫ミラシジラムの走化性	1
	青木 克己		
	藤巻 康教	糸状虫感染幼虫の宿主・認識機構	1
炎症細胞	中村 三千男	リケッチャー感染における遺伝子発現	2
	熊取 厚志		
病変発現	岩崎 琢也	ウイルス感染症の分子病理学的解析	2
	鳥山 寛	肝疾患の臨床病理学的研究	2
生物環境	高木 正洋	熱帯病媒介昆虫の生態調査および行動解析	2
	川田 均		
疾病生態	平山 謙二	住血吸虫性肝線維症の感受性遺伝子の解明 ーマイクロサテライト多型を用いた連鎖あるいは相関解析ー	2
熱帯感染症研究センター	嶋田 雅暁	アフリカにおける感染症調査の方法と意義	2
	鈴木 博	県民の森のツツガムシ相と疫学的意義	2

海外派遣実習生

大 学 名	実 習 学 生 数
1 ライデン大学医学部	2
2 ビュルツブルグ大学医学部	2
3 ベラルーシ医科大学(旧ミンスク)	2

表4 A. 平成14年度長崎大学医学部臨床実習協定締結施設

	施設名	協定年月日
1	長崎市立市民病院	平成8年6月1日
2	日本赤十字社 長崎原爆病院	平成8年6月1日
3	長崎市立病院成人病センター	平成8年6月1日
4	長崎県立大村病院	平成8年6月1日
5	社会福祉法人 長崎市障害福祉センター	平成8年6月1日
6	財団法人 長崎県総合保健センター	平成8年6月1日
7	医療法人春回会 長崎北病院	平成10年5月20日
8	江上耳鼻咽喉科医院	平成11年5月31日
9	医療法人祥二会 西諫早病院	平成12年6月19日
10	医療法人白十字会 佐世保中央病院	平成12年7月21日
11	長崎市中央保健センター（長崎市保健所）	平成12年11月24日
12	医療法人友愛会介護老人保健施設 にしきの里	平成12年11月24日
13	医療法人清潮会介護老人保健施設 みどりの里	平成12年11月24日
14	日本海員掖済会 長崎病院	平成13年5月11日
15	阿南皮膚科医院	平成13年5月11日
16	医療法人北辰会 久保皮膚科医院	平成13年5月11日
17	国立療養所長崎病院	平成13年5月11日
18	ゆきなり・クリニック	平成13年7月10日
19	虹が丘病院	平成13年8月7日

B. 平成14年度長崎大学医学部臨床教授、臨床助教授、臨床講師一覧

称号	氏名	施設名
臨床教授	楠本征夫	長崎市立市民病院
臨床教授	西本勝太郎	長崎市立市民病院
臨床教授	宮田昭海	長崎市立市民病院
臨床教授	鈴木伸	長崎市立市民病院
臨床教授	中尾丞	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	鳥山史	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	中島成人	日本赤十字社長崎原爆病院
臨床教授	田浦幸一	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	須山尚史	長崎市立病院成人病センター
臨床助教授	田所正人	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	山崎和文	長崎市立病院成人病センター
臨床助教授	松永和雄	長崎市立病院成人病センター
臨床教授	富田弘志	長崎県総合保健センター
臨床教授	辻畑光宏	医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	佐藤聡	医療法人春回会長崎北病院
臨床教授	江上徹也	江上耳鼻咽喉科医院
臨床教授	千葉憲哉	医療法人祥仁会西諫早病院
臨床教授	植木幸孝	白十字会佐世保中央病院
臨床教授	阿南貞雄	阿南皮膚科医院
臨床教授	久保容二郎	医療法人北辰会久保皮膚科医院
臨床教授	馬場輝実子	国立療養所長崎病院
臨床教授	平松公三郎	国立療養所長崎病院
臨床教授	本山和徳	国立療養所長崎病院